

令和3年度学校評価総括表

重点目標 (1)一人ひとりを大切にする学級・学部・寄宿舎・学校経営

NO. 1

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ポジティブな行動を増やす支援を学校全体で行うスクールワイド PBS の考え方の浸透 【研究課】	(1) 特別支援学校 コンサルテーションや総合教育センターや要需訪問を活用して、各学部の特定の学年団(チーム)においてポジティブな行動支援の取り組みを実践する。	評価指標 (1) - 1 研究課主催のポジティブな行動支援についての研修会を年間2回実施する。 (1) - 2 チームで指導・支援に取り組むことができるよう、各事例のケース会を年間3回程度実施する。 (1) - 3 専門家の指導・助言を受けて進められるよう、要需訪問の研修会1回、コンサルテーションを4回実施する。 (1) - 4 「ポジティブな行動支援について理解できた」「学年(チーム)で連携しながら指導・支援ができた」の回答率がそれぞれ80%を超える。	評価指標の達成度 総合評価 (評定) ----- (所見)	・	・
		活動計画 (1) - 1 6月に事例担当学年を対象に、8月に全職員(希望者)を対象に研修会を実施する。 (1) - 2 各学部の校内担当リーダーが日程調整を行い、ケース会の計画を立てたり、司会進行を行ったりする。 (1) - 3 県の担当者と連絡調整、校内行事の調整などを行い日程を決める。実施計画書を作成し、他課の協力を得て研修会等を運営する。 (1) - 4 joruri アンケートを実施し、意見を集約する。	活動計画の実施状況		
人権意識に基づく児童生徒指導の徹底 【人権・生徒指導課】	(1) 児童生徒に直接関わる教職員の人権意識を高める。	評価指標 (1) 教職員に対して、人権意識の向上、人権教育への啓発を目的に、人権教育便り「さざんか」を年3回以上発行し、全教職員に配付する。	評価指標の達成度 総合評価 (評定) ----- (所見)	・	・
		活動計画 (1) 人権教育主事会や各種の人権教育研究大会の研修報告や、教育委員会人権教育課や徳島県のあいまーとなどの啓発を目的とした出版物から内容を厳選し、「さざ	活動計画の実施状況		

		んか」を年間3回以上作成する。				
自己肯定感や自尊感情、お互いを思いやる気持ちの育成 【人権・生徒指導課】	(1) 中学部・高等部の生徒に対して、お互いを思いやる気持ちを育成するための指導を行う。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評価) ----- (所見)	.	.
		(1) 中高の生徒に対して、生徒同士が気持ちよく学校生活を送れるように、学部集会の際に、生徒指導または人権教育に関する講話を年6回以上行う。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		(1) 中学部・高等部に所属している生徒指導担当教員および人権教育担当教員がそれぞれ学部集会の時に、「お互いを思いやる気持ち」に関する内容の講話を年間6回以上行う。				
いじめ防止基本方針に基づく予防教育の実践と組織的対応 【人権教育・生徒指導課】	(1) いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの防止に務める。 (2) いじめの早期発見、早期対応につながる取組を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評価) ----- (所見)	.	.
		(1) -1 インターネットやSNSなどの使用に関するモラル（プライバシー保護など）の教育を年1回以上行う。 (1) -2 いじめ防止に関する生徒の自主的な活動の機会を年1回以上設定する。 (2) -1 「いじめアンケート」を年2回以上行い、いじめへの早期発見・早期対応を行う。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		(1) -1 少なくとも年間1回以上、「携帯電話使用教室」（中学部・高等部の生徒対象）を行い、そのときに、インターネットやSNSの使用によって生じるいじめについて言及する。 (1) -2 高等部の部活動である「ふれあいボランティア部」の活動として ①校内での人権ポスターはり（年1回以上） ②人権や差別についての話し合い（年1回以上） ③青少年赤十字（JRC）の活動として、書き損じはがきの収集、1円玉募金（年1回以上）を実施する。 中学部の「いじめ防止子ども委員会」での活動として ①挨拶運動（年間2回） ②いじめの防止活動（年間2回）を実施する。 (2) -1 全校生徒を対象に、年間に少なくとも2回「い				

		じめアンケート」を実施し、その結果を受けて担任教員を中心に、各学部の生徒指導担当教員、学部長で対応する。さらに管理職を含め、全学部長、生徒指導主事、人権教育主事等で組織的に対応する。				
寄宿舎の在り方と機能強化の検討 【寄宿舎】	(1) 基本的な生活習慣を身につけるため、舎生と一緒に目標を決める。 (2) ポジティブな行動を増やす支援を学び、舎生一人ひとりを尊重する意識を高める。	評価指標 (1) - 1 アセスメントを基に、グループ担任で自立できそうな項目を決める。 (1) - 2 保護者の希望を参考に、学級担任と連携して、指導・支援を行う。 (1) - 3 舎生に客観的視点で現在の生活状況を伝え、指導員と相談して目標を決める。舎生自らが前向きに意欲を持って取り組めるものとする。 (2) - 1 ポジティブな行動支援について、指導員全体に共通理解を図る。 (2) - 2 舎生の実態把握に努め、行動目標表を作成し、具体的目標と実施計画を立てる。 (2) - 3 取り組みの成果を舎生に目で見えてわかるようにフィードバックする。	評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
		活動計画 (1) - 1 5月・2月にアセスメントを記入して、グループ担任で実態把握する。 (1) - 2 学校寄宿舎連絡会を年間2回行い、学級担任と共通理解を図る。 (1) - 3 舎生ができるようになるとより良いと思う目標を一緒に話し合い決定する。 (2) - 1 ポジティブな行動支援について、指導員研修を受ける。舎生に付けたい力や課題について指導員間で話し合う。 (2) - 2 望ましい行動がおこりやすい環境設定ややる気を引き出す仕掛け、ルールを明確化する。 (2) - 3 行動の変化を記録しグラフ化や数値化することで、舎生たちが自分の成長を目で見えて理解できるようにする。	活動計画の実施状況	総合評価 (所見)		

重点目標 (2) 児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動

NO. 2

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
実態や特性等に 応じたわかりや すい授業実践と 授業改善 【小学部】	自立活動の時間にお ける指導（主として 「なかよしタイム」 の実践において以下 の目標を設定する。 (1) 自立活動の時 間における指導につ いて、現状に即した 目的、方法を検討し、 学部全体で共通理解 を図り、実践する。 (2) 各児童の発達	<u>評価指標</u> (1) -1 自立活動推進委員会を年間3回以上実施し、自 立活動の時間における指導について、学部全体 の共通理解を図る。 (2) -1 個々の児童の実態把握を行い、年間目標及び短 期目標を立案し、ケース会を年間2回以上実施 する。 (2) -2 各児童の目標の達成基準をできるだけ数値化 し、評価しやすくするとともに、エピソード評 価も行う、授業改善につなげる。個別の指導計 画において、学部全体で80%以上の目標達成 率を得ることができる。	<u>評価指標の達成度</u>	総合評価 (評定) ----- (所見)	・
		<u>活動計画</u> (1) -1 4月の学部会で自立活動の目的や年間計画につ いて共通理解を図る。6月、8月、12月、2月 に自立活動推進委員会を実施し、現状と課題を 検討するとともに、年間計画を見直す。随時、 学部会で共通理解を図る。 (2) -1 各学年において8月、2月にケース会議を実施 する。各児童の実態や目標について共通理解を 図り、授業実践を行う。 (2) -2 個別の指導計画における記録を単元または授業 ごとに記録する。記録は、数値評価とエピソード 評価の双方から具体的な評価ができるように し、授業改善に生かす。	<u>活動計画の実施状況</u>		
実態や特性に応 じたわかりやす い授業改善と ICT 機器活用に	(1) 生徒が主体的 に取り組む授業実践 を目指しICTを活用 した授業実践を行う。	<u>評価指標</u> (1) -1 今年度の高等部の取組「生徒自身が操作できる ICT を活用した教材づくり」について共通理解 を図る。	<u>評価指標の達成度</u>	総合評価 (評定) -----	・

による授業実践 【 高等部 】		(1) -2 高等部教員対象にICT 研修会を実施する。 (1) -3 生徒に何を教えるか、どの授業で活用するか等を学級ごとに検討した後、各学級で1回以上ICTを活用した授業を行う。 (1) -4 総合教育センターより講師を招聘し、研修会を実施する。 (1) -5 夏季休業中にICT活用に向けた教材作成づくりの日を1日設定する。 (1) -6 作成した教材を各クラス1つ以上タマルクンにアップする。 (1) -7 授業実施後の教員アンケートで、各項目において「満足である」等、肯定的な評価(80%以上)となる。		(所見)		
		活動計画 (1) -1 学部会で高等部教員に説明し、周知する。 (1) -2 学年主任・情報教育課で研修日程を調整する。 (1) -3 7月の学部会で課題について説明し、9月～12月の期間に各学級で授業を実施する。(生活単元学習、自立活動等) (1) -4 学部会終了後に研修会(MetaMojiClassRoom等)を実施する。研修については、希望者のみとする。 (1) -5 夏季休業中に各学年ごとに日を設定し、情報教育課員が講師となり、教員間がともに学びながら教材づくりを実施する。作成した教材をタマルクンにアップする。 (1) -6 12月に教員アンケートを実施する。	活動計画の実施状況			
ICT 機器活用のための環境整備 【情報教育課】	(1) 校内の情報機器(放送機器・ICT機器等)を調査し、管理体制を見直す。 (2) 授業支援アプリの研修を行い、教育活動への使用の推進を図る。	評価目標 (1) -1 校内の情報機器(放送機器・ICT機器)を調査し、管理体制を整理する。 (1) -2 各学部の機器の過不足を調整し、新たな機器導入について、教育的な効果の高いものの購入を検討する。 (2) -1 基礎編と応用編で研修を行う。 (2) -2 研修参加者が全体の80%以上となる。	評価目標の達成度	総合評価 (評価) ----- (所見)		

活動計画	活動計画の実施状況
<p>(1) -1 校内の情報機器（放送機器・ICT 機器）を調査する（8月）。</p> <p>(1) -2 過不足を学部で調整し、環境を整える。</p> <p>(1) -3 教育活動に必要な情報機器については購入を検討する。</p> <p>(2) -1 授業で使用頻度が高そうなアプリから研修を行う。</p> <p>(2) -2 基礎編から始め研修に参加しやすい環境で実施する。</p> <p>(2) -3 教員のニーズに応じた応用編の研修を実施する。</p> <p>(2) -4 研修後にアンケートを実施し理解の度合いを把握し次回の研修会にいかす。</p>	

重点目標 (3) 自立と社会参加につながるキャリア教育

NO. 3

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
進路希望の実現に向けた学習指導・教育活動の充実 【進路指導課】	(1) 県内の様々な動向に注視しながら、関係機関と連携し、質の高い就業体験を実施する。 (2) 1年間の就業体験や関係機関との連携を振り返り、次年度の計画へつなげる。	<p>評価指標</p> <p>(1) -1 就業体験や見学希望のある事業所に事前に課員が1回以上訪問し、情報交換や理解啓発を行う。</p> <p>(1) -2 高等部2年生において希望する福祉サービス事業所での就業体験を一人2回実施する。</p> <p>(2) 「関係機関と連携した就労支援」を研究テーマにして就業体験日数や相談回数、就職率などを項目ごとにデータ化する。</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>	<p>・</p>
		<p>活動計画</p> <p>(1) -1 正確に進路希望、企業等見学希望を集計する。</p> <p>(1) -2 本人・保護者、担任、進路指導課で情報の共有を図り、体験先の選定では必要に応じて進路相談を実施する。</p> <p>(2) 就労支援について関係機関と連携した事象をすべて記録し、一覧表等を作成する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

重点目標 (4) 健康・安心・安全な学校づくり

NO. 4

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
感染拡大防止対策の徹底と教育活動の両立 【 中学部 】	(1) 中学部の授業において、情報機器等を活用して感染拡大防止に配慮した授業を計画し、授業実践をする。 (2) 授業実践後は、授業の振り返りと改善に取り組む。 【授業内容・学習環境の環境整備（感染症対策および情報機器）】	評価指標 (1) 各学年の授業において、情報機器等を活用して感染拡大防止に配慮した授業を年間3回以上計画・実施する。 (2) -1 授業計画・実践後の授業内容および授業環境等の改善について記入する書式を作成し、各学年で1授業につき1枚（年間3枚以上）記入する。 (2) -2 記入した書式を整理するファイルを中学部で作成し、保存する。	評価指標の達成度 	総合評価 （評定） ----- （所見）	・
		活動計画 (1) -1 年間を通して国および県の感染防止対策を取り入れ作成した本校のガイドラインに沿って、健康で安全な学習活動についての情報提供や検討を月1回の中学部会で行う。 (1) -2 年間を通して、パソコンや iPad 等の情報教育機器の活用に関する情報を学部内で共有する。 (1) -3 学年主任会において、年間2回以上各学年で情報教育機器を活用することで感染拡大防止にもつなげることができる有効な授業実践について検討する。 (1) -4 6月以降に、授業内容および日程を決定し、学年を中心に授業実践する。 (2) -1 6月の学年主任会までに、①授業内容②配慮した感染症対策と学習環境③授業で使用した情報機器とそれらを含む学習環境④授業を実施しての振り返り（情報機器の使用・感染症対策を含む）⑤今後の課題 の内容について記入できる書式を作成して各学年主任に配布する。 (2) -2 各学年3時間以上の授業実践と（2）-1の記入済み書式の提出が終了後に、学年主任会にて年間の授業実践について振り返りをし、改善点	活動計画の実施状況 		

		を話し合う。 (2) -3 保存用ファイルを作成し、記入済みの書式を綴じて学部長が保存し、次年度へ引き継ぐ。				
児童生徒に応じた教室等学習環境の配慮と整備 【教務課】	(1) 今年度以降における学校整備に関して、特別教室等における授業を実施する際の課題を明らかにし、学習環境の改善を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	.	.
		活動計画	活動計画の実施状況			
学校内の健康安全管理体制の充実 【安全課】	(1) 感染を防止するとともに、感染時を想定して、準備するとともに事後の対応が迅速にできるようにする。 (2) 災害時に備え定期薬の常備を勧める	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	.	.
		活動計画	活動計画の実施状況			

		し、希望者を把握する。 (2) - 2 希望のあった保護者に定期薬3日分の準備を依頼する。 (2) - 3 毎年2回(4月・9月)薬の点検を保護者に依頼する。			
学校行事における感染症拡大防止対策の徹底 【特別活動課】	(1) 秋に開催される学校祭について、十分に検討し、安全な実施を計画する。	評価目標 (1) - 1 学校ガイドラインを踏まえて、各学部ごとに学校祭ガイドラインを作成し、実施計画を立案する。 (1) - 2 各計画段階や準備段階において、十分な感染症拡大防止対策が講じられているか、実践できているかを担当者間で振り返りを行う。 (学年3回, 学部3回, 課内3回以上)	評価目標の達成度	総合評価 (評定) ----- (所見)	
		活動計画 (1) - 1 7月中旬までに、昨年度の同時期のガイドラインや現在の感染拡大状況を参考に、学校祭ガイドライン及び実施計画を作成する。 (1) - 2 適宜、担当者間で点検や確認、計画の変更を行い、感染拡大防止対策を確実に実行する。	活動計画の実施状況		

重点目標 (5) 家庭・地域・関係諸機関との連携・協働

NO. 5

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
教育活動の適切な情報発信 【渉外課】	(1) 「開かれた学校」に向けた保護者、地域との連携の充実に図る。	評価指標 (1) PTA の活動内容を、年に3回以上、HP で発信する。	評価指標の達成度 	総合評価 (評定) ----- (所見)	・
		活動計画 (1) -1 行事ごとに、課員と分担して写真を撮り、フォルダに保存し、なるべく迅速に情報の発信に努める。 (1) -2 行事以外にも、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンの告知などの情報も積極的に発信する。	活動計画の実施状況 		
センター的機能の充実及び地域の学校等との連携 【地域支援課】	(1) センター的機能を発揮し、地域の学校等の状況把握に努める。	評価指標 (1) コロナ対策に対応した学校見学を行い、地域の学校等の状況把握を行い、教育相談へとつなげる。	評価指標の達成度 	総合評価 (評定) ----- (所見)	・
		活動計画 (1) -1 年度当初に地域教育機関等に向けて本校の相談業務を紹介する。 (1) -2 保育所や学校等のニーズに対応し、巡回相談を行う。(通年) (1) -3 学校見学実施の就学希望者へ巡回相談を案内する。 (1) -4 学校 HP 上で教材や指導の手立て等について情報発信する。	活動計画の実施状況 		

<p>地域とともにあ る学校づくり</p> <p>【管理職】</p>	<p>(1) 学校運営協議 会を設置し、地域と 連携した学校づくり を目指す。</p>	<p>評価目標</p> <p>(1) - 1 10月に学校運営協議会を設置し、年2回会議を開催する。</p> <p>(1) - 2 地域と連携した取り組みを各学部1回以上実施する。</p>				
		<p>活動計画</p> <p>(1) - 1 8月までに実施計画書を作成し教育委員会に申請するとともに、10月と2月の会議日程を調整する。会議において協議した事項を次年度の学校運営に生かす。</p> <p>(1) - 2 地域と連携した体験活動を各学部1回以上実施し、児童生徒の自己肯定感の育成や地域とのつながりを深める。</p>				

重点目標 (6) 組織的な学校運営

NO. 6

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
業務改善による ワークライフバ ランスの推進 【管理職】	(1) 会議における ペーパーレス化を図 り、資料準備にかか る事務処理を軽減す る。 (2) 繁忙期における 業務時間を見直すこ とにより、時間外在 校時間の縮減を図る。	評価指標 (1) - 運営委員会において、iPad を使った資料提示に よる会議を年間5回以上行う。 (1) - 2 紙媒体での資料は記録用のみとし、資料準備に かかる事務処理を軽減するとともに印刷経費の 削減を図る。 (2) - 1 一年単位の変形労働制を導入し、長期休業中に 2日の休日を設定する。 (2) - 実施した教員にアンケートを実施し、100% の回答を得る。	評価指標の達成度 	総合評価 (評定) ----- (所見)	・
		活動計画 (1) - 1 運営委員会実施前日までに iPad の準備を呼び かけ、会議での資料の開き方を説明する。 (1) - 2 学習系サーバーに運営委員会のフォルダを作成 し、校務系から学習系へデータの移し替えを行 い、各自が iPad を使って資料を閲覧できるよ うにする。 (2) - 1 6月の職員会議で制度についての説明と導入案 を提示し、希望者を募る。 (2) - 2 対象期間における実施者の時間外在校時間を把 握し、前年度と比較する。 (2) - 3 実施した教員にアンケートを行い、意見をもと に制度の有効性について検証する。	活動計画の実施状況 		